

県指定 有形文化財

床木河野家石幢



床木地区の河野家は、伝統ある古い家柄で、この地区が天領(幕府直轄領)となって以来、庄屋格として村の中心的存在として栄えてきた。この石幢は天領となる以前に河野一族が、河野主殿允外供養のために建立したものである。石幢は重制石幢で、中台はやや小さく、珍しい宝珠とともに特異な塔形をつくっている。中台の上の軸部は四面体で、仏龕をつくり一面二尊の六地藏を平彫りして、他の一面には十王像を二体彫りだしてある。石幢の形態の優美さと、由緒を物語る元亀四年(1573)の銘文をもつ見事な逆修六地藏塔である。